

クラス番号	348	担当教員名	藤井渉
		他専修学生受入上限人数	1名
テーマ	障害者福祉を考えよう		
著書・論文 研究課題等	<p>障害者に必要な支援やそのあり方について考えたり、社会にある障害者差別の問題などに取り組んでいます。</p> <p>著書：『ソーシャルワーカーのための反『優生学講座』 — 「役立たず」の歴史に抗う福祉実践』（現代書館、2022年）、『障害とは何か — 戦力ならざる者の戦争と福祉』（法律文化社、2017年）など。</p>		

## ゼミナール概要

キーワード：障害者福祉、障害とは、障害者差別、福祉実践、支援、歴史、戦争、優生思想

### 目的

いま、障害者福祉現場にある問題を、できるだけ幅広い視野から理解し、考えられるようになること、そして、現場の問題について主体的に実践できるようになることを目標に学習を進めていきます。

### 授業計画

基本的には次の3つを中心に演習を通して学びます。

①3回生前期では、ゼミのみなさんで学びたいテーマを決め、学習を進めます。学習を進めるために大事なのが、図書館で文献を調べることであり、実際に現場に赴いて考えてみるというフィールドワークです。ゼミではいろんな文献を紹介しつつ、できるだけフィールドに訪問したり話を聞いたりする機会を準備したいと思います。

②3回生後期では、その学習を踏まえ、障害者福祉のテーマを自分で決めます。自分でテーマを決めるのは意外と難しいことです。テーマを決めるためには、自分史にも向き合いながら、意見を交わし、深めていくことで自分なりの「問い」を探すことになります。そのための方法、あるいはその整理を共同で進めていきます。年度終わりには、新型コロナの状況によりますが、日帰り、または宿泊をとまなう研究報告会を予定しています。

③4回生では、自身で立てた「問い」について、なぜそうなっているのかを考え、卒論にまとめていきます。

なお、ゼミでは月に1回、ゼミ通信を発行しています（右下図）。障害者福祉動向について紹介し、順番に全員にエッセーを執筆してもらう場としています。

### ゼミ・プロジェクト

現在、愛知県西尾市で障害者の福祉事業の新規立ち上げを検討している事業者から依頼を受け、西尾市、およびその周辺地域における社会調査をゼミで行っています。社会調査は、どういったニーズがあるのかについて、公開されているデータと、西尾市の事業所・施設にヒアリングを通して行っています。調査終了後は、依頼された事業者らに対してプレゼンテーションを行う予定です。

事業者は福祉事業の新規立ち上げを検討しており、プロジェクトの進行状況によっては引き続きゼミで何かしらの活動を行うことになる可能性がありますので、積極的に参加してもらえたらと思います。



## 担当教員からのメッセージ



ゼミでは自由な論議を重視しています。ゼミでは気軽に、そして積極的に議論に参加することを求めています。自由な論議でぜひ大事にしてほしいのが、人の「いたみ」にできるだけ寄り添ってもらいたいことです。ここでいう「いたみ」とは、傷つけられたという「痛み」だけでなく、「悼み」という意味を含みます。つまり、過去に積み重ねられてきた人たちへの悼みであり、ぜひそれに何かしらの敬意を払ってもらいたいということです。実は、そのために学習しなければいけないのが歴史であり、その意義や魅力についてゼミ全般を通して知ってもらえたらと思っています。